

A N N U A L R E P O R T 2 0 1 3

年次報告書



ごあいさつ



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

今井 敬

当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため設立され、以後、潤いのある豊かな社会の創造に向けて、様々な事業を行ってまいりました。

2013年の「コスモス国際賞」(第21回)は、アメリカのワシントン大学名誉教授ロバート・トリート・ペイン博士に授賞いたしました。ペイン博士は、捕食者が生態系全体の維持に不可欠なことをヒトデ等の実験により証明し、生きものの相互依存、相互作用の関係性を明らかにしました。これは、地球上の多様な生きもののあり方を探り、自然と人間との共生を目指すコスモス国際賞にふさわしい優れた業績といえます。

助成・協働事業や普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業におきましても、様々な活動を行い、有意義な成果をあげることができました。

本書は、これら2013年度の当協会の事業の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸いです。

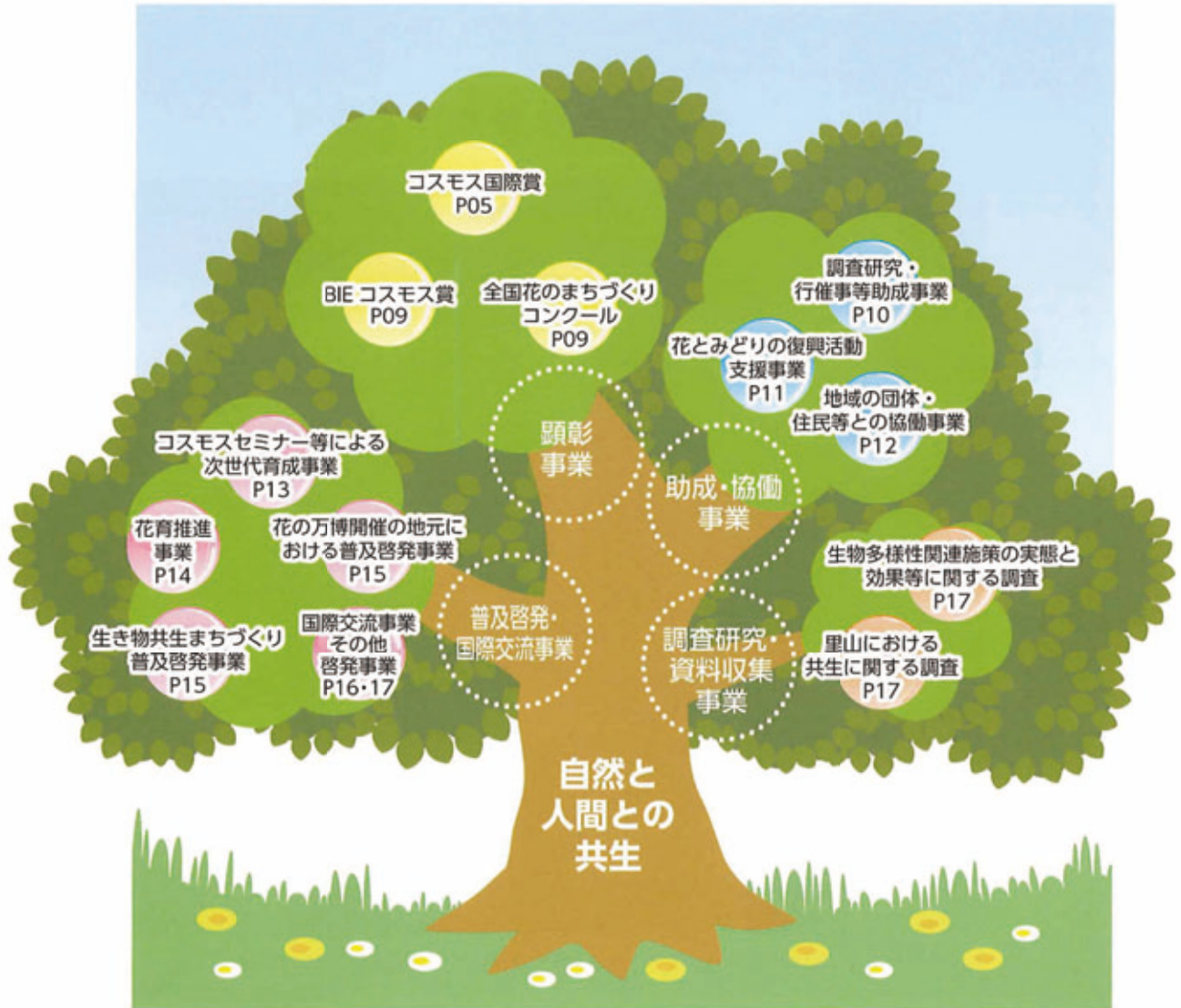
2014年度は、公益財団法人へ移行した2年目として、これまでの実績を踏まえた更なる事業推進はもちろん、公益法人にふさわしい活動を進めてまいりますので、皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

皇太子同妃両殿下ご接見



コスモス国際賞受賞者ロバート・トリート・ペイン博士は、皇太子同妃両殿下とお会いになった。
(平成25年11月12日 東宮御所にて)

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につなげる事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会にたずさわった者の責務であるとする。

そのため、博覧会にたずさわった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

平成3年11月1日

顕彰事業

コスモス国際賞

「自然と人間との共生」という理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2013年(第21回)受賞者を迎え、授賞式等を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等 コスモス賞委員会(以下「賞委員会」)及びコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業を行いました。

<2013年(第21回)受賞者の選考・決定等>

第1回・第2回選考委員会(平成25年5月21日、6月8日)

第3回選考委員会(平成25年6月24日)

第1回賞委員会(平成25年6月24日)

2013年コスモス賞受賞候補者にロバート・トリート・ペイン博士(ワシントン大学名誉教授)が選出されました。

第80回理事会(平成25年7月30日)

賞委員長より選考の経緯及び結果が報告され、受賞者として決定しました。

また、同日内外の報道機関に対し、記者発表等を実施しました。



2013年(第21回)コスモス賞受賞者

ロバート・トリート・ペイン博士
ワシントン大学名誉教授

生物群集の安定的な維持に捕食者の存在が不可欠なことを、明快な野外実験によって示し、キーストーン種という概念を提唱した。博士の一連の研究は、生物多様性を扱う群集生態学の分野に新しい視点をもたらし、生態学はもとより保全生物学や、一般の人々の生物多様性への理解に大きな影響を与えた。

<2014年(第22回)受賞者の選考等>

第2回賞委員会(平成26年1月28日)

2013年
(第21回)
コスモス賞
授賞式の開催

国内外の賓客及び招待者約400名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時:平成25年11月7日(木)午後3時~午後5時

場 所:いずみホール[大阪市中央区]

出席者:約400名

次 第:開会 賞委員及び選考専門委員等の紹介
主催者紹介 来賓紹介(トリック・リネハン駐大阪・神戸
米国総領事館総領事、伊澤透農林水産省農林水産技術会
議事務局・研究総務官、佐藤憲雄国土交通省大臣官房
審議官、小河保之大阪府副知事、立田章大阪市建設局緑
化総括技監)

主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介 受賞者入場
賞状・賞金目録贈呈 メダル贈呈 来賓祝辞 受賞者講演
祝賀演奏 閉会

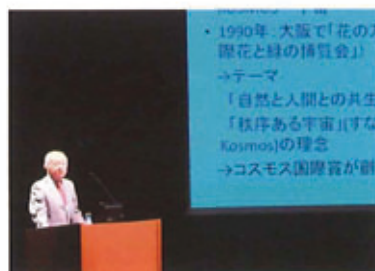


顕彰事業

自然と人間との
共生フォーラム
(2013年コス
モス国際賞受賞
者講演会)

コスモス国際賞授賞式の関連行事として2013年受賞者ロバートトリート・ペイン博士による講演会を開催しました。

	●大阪	●東京
日時	平成25年11月5日(火) 午後4時～午後6時	平成25年11月11日(月) 午後4時～午後6時
場所	テイジンホール [大阪市中央区]	東京大学弥生講堂一条ホール [東京都文京区]
講演	テーマ 「自然と人間との共生」をめざして ～生物多様性、保全およびダイナミックな自然の世界～ 講師 2013年(第21回)コスモス国際賞受賞者 ロバートトリート・ペイン博士(ワシントン大学名誉教授)	
次第等	講師等 受賞者紹介 武内和彦 (コスモス国際賞選考専門委員会委員長、 東京大学サステナビリティ学連携研究機構長-教授) 対談 ロバートトリート・ペイン博士 長谷川眞理子 (総合研究大学院大学教授)	受賞者紹介 武内和彦 (コスモス国際賞選考専門委員会委員長、 東京大学サステナビリティ学連携研究機構長-教授) 対談 ロバートトリート・ペイン博士 白山義久 ((独)海洋研究開発機構理事)
参加者	約200名	約250名
共催	東京都教育委員会(東京開催)	
後援	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、アメリカ大使館、大阪府(大阪開催)、大阪市(大阪開催)	



コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

1993年(第1回) 平成5年

ギリアン・フランス 卿
Sir. Ghillean France



イギリス・王立キュー植物園園長

南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

1994年(第2回) 平成6年

ジャック・フランソワ・バロー
(物故)
Dr. Jacques Francois Barrau



フランス・パリ国立自然史博物館教授

太平洋の島々の自然と人たちの暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これを基に、人間と食糧をテーマに、全地球的な視点から、ユニークな考察を発表した。

1995年(第3回) 平成7年

吉良 龍夫
(物故)
Dr. Tatuo Kira



日本・大阪市立大学名誉教授

光合成による植物の有機物生産の定量的研究を基に、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割を務めた。

1996年(第4回) 平成8年

ジョージ・ビールズ・シャラー
Dr. George Beals Schaller



米国・野生生物保護協会科学部長

40年にわたり、世界各地でさまざまな野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ・生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

1997年(第5回) 平成9年

リチャード・ドーキンス
Dr. Richard Dawkins



英国・オックスフォード大学教授

1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識をくつがえす大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して学界に論争を起こしている。

1998年(第6回) 平成10年

ジャレド・メイスン・ダイヤモンド
Dr. Jared Mason Diamond



米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授

医学部で生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらを基に、人類の歴史的な発展を再構成したユニークな考察を発表した。

1999年(第7回) 平成11年

呉 征鎰(ウー・チェン・イー)
(物故)
Dr. Wu Zheng-Yi



中国・中国科学院昆明植物研究所教授・名誉所長

中国を代表する植物学者。中国を拠点に東アジア地域の植物の調査研究に取り組み、中国全土の植物の種の多様性を網羅する「中国植物志」の編集を主導、刊行を実現させた。

2000年(第8回) 平成12年

デービッド・アッテンボロー卿
Sir David Attenborough



英国・映像プロデューサー

野生生物のドキュメント映像のバイオニア。BBC時代から退社後を含め、約半世紀にわたって、地球上の野生の動植物の生の姿を、優れた映像で全世界に伝えた。

2001年(第9回) 平成13年

アン・ウィストン・スパーン
Prof. Anne Whiston Spirn



米国・マサチューセッツ工科大学教授

都市と自然は対立するものでなく、周辺の地域環境と調和し、その一部として存在する都市の構築が可能であるとし、都市が自然との調和をはかりながら発展する方策を示した。

2002年(第10回) 平成14年

チャールズ・ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Station



エクアドル

1964年設立の生物学研究所。南米エクアドル領のガラパゴス諸島で、ゾウガメ、イグアナなど、特異な固有生物の調査研究と保護に当たっている。

コスモス国際賞歴代受賞者

2003年(第11回) 平成15年
ピーター・ハミルトン・レーブン
Dr. Peter Hamilton Raven



米国・ミズーリ植物園園長
米国を代表する植物学者で、地球の生物多様性の保全を提唱した国際的な先駆者。常に地球的な視点で生命の問題を考え、学術と実践両面で自然と人間との共生に貢献した。

2004年(第12回) 平成16年
フーリャ・カラビラス・リジョ
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学教授
途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、フィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合したプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題に優れた成果を挙げた。

2005年(第13回) 平成17年
ダニエル・ポーリー
Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授
漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究。海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデル開発など、海洋生態系と資源研究の分野で優れた業績を収めた。

2006年(第14回) 平成18年
ラマン・スクマル
Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所 生態学センター教授
ゾウと人間との生態関係や軋轡への対応をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

2007年(第15回) 平成19年
ジョージナ・メアリー・メイス
Dr. Georgina Mary Mace



イギリス・ロンドン大学自然環境調査会議個体群生物学研究センター所長兼教授
絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みを行なった。

2008年(第16回) 平成20年
ファン・グエン・ホン
Dr. Phan Nguyen Hong



ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。

2009年(第17回) 平成21年
グレッチェン・カーラ・デイリー
Dr. Gretchen Cara Daily



米国・スタンフォード大学教授
生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

2010年(第18回) 平成22年
エステラ・ベルゲレ・レオポルド
Dr. Estella Bergere Leopold II



米国・ワシントン大学生物学部名誉教授
花粉学者であり自然保護論者として博士の父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。

2011年(第19回) 平成23年
海洋生物センサス科学推進委員会
The Scientific Steering Committee of
the Census of Marine Life



海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システムという統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導した。

2012年(第20回) 平成24年
エドワード・オズボーン・ウィルソン
Dr. Edward Osborne Wilson



米国・ハーバード大学名誉教授
アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源、人間の本性、人間の相互作用の研究に努めた。

委員会

コスモス国際賞委員会委員 平成25年4月1日現在(50名満)

委員長	岸本 忠三	大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授
副委員長	古在 由秀	日本学士院第2部部長
委員	尾池 和夫	京都造形芸術大学学長
委員	加藤 雅啓	東京大学名誉教授
委員	金澤 一郎	元日本学術会議会長
委員	小山 修三	(一財)千里文化財団理事長
委員	鈴木 昭憲	東京大学名誉教授
委員	武内 和彦	東京大学サステナビリティ学連携研究機構長・教授
委員	中村 桂子	JT生命誌研究館館長
顧問	有馬 朗人	(学)根津育英会武蔵学園理事長

コスモス国際賞選考専門委員会委員 平成25年4月1日現在(50名満)

委員長	武内 和彦	東京大学サステナビリティ学連携研究機構長・教授
副委員長	野家 啓一	東北大学教養教育院 総長特命教授
委員	秋道 智彌	総合地球環境学研究所名誉教授
委員	池内 了	総合研究大学院大学理事・教授
委員	今福 道夫	京都大学名誉教授
委員	モンテ・カセム	立命館大学名誉教授
委員	ケビン・ショート	東京情報大学環境情報学科教授
委員	村上 哲明	首都大学東京大学院理工学研究科教授
委員	鷺谷いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科教授

BIEコスモス賞

当協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE(博覧会国際事務局:本部パリ)とその創設を合意した「BIEコスモス賞」を支援しました。

平成25年度は、次回の授賞が予定されているミラノ万博での実施をBIEと調整しました。

全国花のまちづくりコンクール

花の万博の開催を契機に、「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして、農林水産省及び国土交通省の提唱により平成3年度に創設された本コンクールに、次のとおり参画しました。

第23回

(2013年)全国 花のまちづくり コンクール

応募数: 2,187件

入賞: 農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各2点をはじめ24点

表彰式

開催日: 平成25年10月31日(木)

場所: 学士会館[東京都千代田区]

受賞者: 市町村、団体、個人、企業の4部門

主催: 花のまちづくりコンクール推進協議会

[当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)日本花普及センター]



農林水産大臣賞



国土交通大臣賞



農林水産大臣賞



国土交通大臣賞

助成・協働
事業

調査研究・行催事等の助成事業

花の万博の理念の継承発展又は普及啓発のため調査研究、技術開発、活動、行催事等を支援する助成事業を次のとおり実施しました。

平成25年度
助成対象一覧

平成25年度は20件の事業を助成しました。

●事業区分	●助成対象事業名	●助成対象団体名
調査研究開発	夕張岳における防鹿柵を用いたエゾシカ被害対策	ユウバリコザクラの会
	ブナ林の維持・再生に係るブナ個体の生育条件の研究	東京大学大学院理学系研究科付属日光植物園生態学チーム
	日本産シダ植物分布状況変遷のモニタリング調査	日本シダの会
	JAPANESE HORTICULTURE の刊行	JAPANESE HORTICULTURE 刊行準備委員会
	金華山島のニホンジカの出生・生残のモニタリング	NPO法人 生物多様性研究所あーすわーむ
	本州中部の希少地形に成立する群落の保全生態学的研究	信大自然史研究会
	屋久島における人と自然の関係史と保全状況の市民調査	屋久島まるごと保全協会
活動・行催事	白神山地世界遺産登録20周年記念セミナーと写真展の開催事業	特定非営利活動法人 白神山地を守る会
	福島っ子応援みどりの宅配便 平成25年度推進事業	公益財団法人 福島県都市公園・緑化協会
	野生絶滅種コシガヤホシクサ野生復帰活動事業	特定非営利活動法人 アクアキャンプ
	自治医科大学とちぎ子ども医療センター園芸活動	自治医科大学とちぎ子ども医療センター花咲jii
	北上南部の自然を活用するための現地見学会の実施	特定非営利活動法人 山の自然学クラブ
	植樹を通じ、自然を学ぶ日	特色のある緑の公園を造る会
	里山の自然を学ぼう～角間の里山自然探検～	公益財団法人 金子子ども科学財団
	京都の希少な山野草等の継続的な栽培体制の確立と普及	公益財団法人 京都市都市緑化協会
	大和葛城山の希少動植物の保護活動	大和葛城山の自然を大切にする会
	六甲山大学 ミントサロン MIDORI塾	六甲山大学実行委員会
	里山に自生する山野草の保全と管理	里山の山野草を守る会
	「かんべの里周辺における里山の環境をよみがえらせる事業」	NPO法人 バイオマス総合研究センター
	「自然とひととの共生」にかかわる実践的啓発活動	みやざき自然塾

平成25年度
主な助成対象



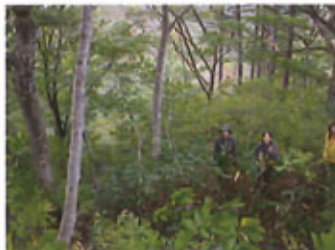
夕張岳における防鹿柵を用いたエゾシカ被害対策



福島っ子応援みどりの宅配便 平成25年度推進事業



植樹を通じ、自然を学ぶ日



ブナ林の維持・再生に係るブナ個体の生育条件の研究



里山に自生する山野草の保全と管理



野生絶滅種コシガヤホシクサ野生復帰活動事業

平成26年度
助成対象の決定

平成26年度の助成対象を決定しました。

〈公募〉公募期間:平成25年8月1日(木)~9月17日(火)
応募件数:77件

〈審査〉審査期間:平成25年10月~平成25年12月

〈決定〉助成事業審査委員会の審査結果報告が理事長に答申され、助成対象20件を平成26年3月25日(火)開催の第81回理事会にて決定しました。

助成事業
成果発表会の開催

助成事業の成果を広く波及させるため、助成事業成果発表会等を開催しました。

日時:平成26年3月21日(金・祝)午後1時30分~7時

場所:宮崎県農協会館(宮崎県宮崎市)

来場者:約210人

内容:過去の助成対象者の中から5団体が事業の内容やその成果について発表を行い、併せて「地域へ広がる花とみどりの力」と題して、徳原真人氏(ガーデンデザイナー)による講演会と、団体と参加者による交流会を開催しました。

後援:農林水産省、国土交通省、宮崎県・宮崎市ほか10団体

委員会

花博記念協会助成事業審査委員会委員 平成25年4月1日現在(50名)

委員長 近藤 公夫 奈良女子大学名誉教授

委員 須磨佳津江 キャスター・ジャーナリスト

副委員長 尼崎 博正 京都造形芸術大学教授

委員 長村 智司 (一社)フラワーズサイエティー会長

委員 今西 英雄 大阪府立大学名誉教授

委員 服部 明世 前(財)都市緑化技術開発機構理事長

委員 佐倉 統 東京大学大学院情報学環教授

委員 鷺谷いづみ 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

花とみどりの復興活動支援事業

東日本大震災の復旧・復興を花とみどりで支援するため、「花とみどりの復興支援ネットワーク」に参加し、復興活動に対する支援金の提供を行いました。

平成25年度
支援内容

公募期間:平成25年4月1日(月)~平成26年3月31日(月)

支援件数:10件

支援総額:2,317,000円



田の浦ファンクラブ



NPO法人マリンサポート



希望の花いわて3.11プロジェクト

助成・協働
事業

地域の団体・住民等との協働事業

花の万博の理念継承及び普及啓発のため、平成24年度から地方公共団体、企業、ボランティア、住民等と協働しての花と緑のまちづくり事業を開始しました。

平成25年度概要 平成25年度は花の万博開催地元である大阪をモデル地域とし、「みどりの風の道」エリアの形成をめざし、公有地や民有地での植樹を行うとともに、御堂筋等において都市の賑わいづくりや環境、景観の改善を図るために花飾り等を行いました。
また、都市と自然に関する普及啓発を目的として、「みどりの風フォーラム」や「みどりの交流広場」を開催しました。さらに大阪府内の公園や植物園において開催されるイベントへの協力を行いました。

●事業名称	●詳細	●事業名	●内容
みどりの風を感じる都市支援事業	地域団体、地方自治体と協働したみどりの風の道植樹運動	企業等との連携による事業	鶴見緑地緑のせせらぎ地区での植樹
		緑の一里塚	堺市堺区榎校区、羽曳野市野地区及び駒ヶ谷地区、太子町春日地区
		みどりの風の道近傍民有地緑化	みどりの風の道促進区域植樹協力支援
	シンポジウム・フォーラム等の開催	コミュニティガーデンづくり	守口市浜町地区、摂津市昭和園地区、門真市島嶺地区
		みどりの風フォーラム	第2回みどりの風フォーラム 詳細(P17 国際交流事業参照)
市民交流の場づくり		花飾りや緑化、環境保全等を行っている市民団体の交流の場として「第2回みどりの交流広場」を開催 日時:平成26年2月11日 正午～午後5時30分 場所:花博記念ホール 協力:生き生き地球館 参加者:130名	
展示物による普及啓発	平成24年度に製作したジオラマ(風の道大型模型)を展示 期間:平成25年7月29日～8月16日 場所:大阪市役所ホール		
花とみどりを活かした賑わい空間支援事業	都市の花飾り等	地方自治体、地域団体と協働で実施する花飾り	御堂筋、大阪高裁・地裁前、竹内街道、大阪市北区中津地区及び扇町地区
	地域と連携した普及啓発活動	地域の企業、商店等と協働で実施する花飾り	御堂筋(1企業) 三休橋筋(1店舗)
都市と自然環境に関する普及啓発事業	植物園と連携したシンポジウムの開催等	ミツバチが暮らすみんなで育てる花いっぱいまちづくりプロジェクト	大阪市立中津小学校、扇町小学校が栽培した菜の花を用いて企業や住民による地域の花飾りを実施
	高校生を対象としたフォーラム(自然と人間との共生フォーラム)	公園内イベント協力	フラワー10days in 大阪2013 期間:平成25年10月26日～11月4日 場所:大阪府立花の文化園他
		世界的な知識人を招いてのフォーラム等	コスモス国際賞受賞者を招いて開催 詳細(P06 自然と人間との共生フォーラム参照)



みどりの交流広場



御堂筋連続植樹帯



緑の一里塚太子町

普及啓発・
国際交流事業

コスモスセミナー等による次世代育成事業

花の万博の理念の継承発展のため、コスモス賞や協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、屋外での自然観察(フィールド型)セミナー、講師派遣型セミナーを行いました。

「自然観察教室」
～集まれ昆虫
好きな子供たち
2013～

開催日：平成25年8月6日(火)～8月8日(木)
場 所：関西学術研究都市清滝・室池地区「アイ・アイ・ランド」[大阪府四條畷市]
講 師：保田 淑郎(大阪府立大学名誉教授)
久留飛克明(箕面公園昆虫館館長)
谷 幸三(晴れの国野生生物研究会会長)
南 尚美(奈良生物研究会)
参加者：近畿圏の小学4年～6年生、中学1年生 29名
共 催：大阪府池田土木事務所、箕面公園昆虫館
後 援：大阪府教育委員会、奈良県、奈良県教育委員会、
四條畷市、四條畷市教育委員会、生駒市、生駒市教育委員会、
日本環境教育学会、日本昆虫学会、日本生態学会、
日本動物行動学会、日本昆虫協会、JT生命誌研究館



小学校講師派遣

テーマ「鶴見緑地にすむ生き物の種類や生態について」
日 時：平成25年7月3日(水)(3、4時間目)
場 所：鶴見緑地 [大阪市鶴見区]
講 師：谷 幸三(晴れの国野生生物研究会会長)
参加者：東大阪市菱屋西小学校 [大阪府東大阪市]小学3年生44名

テーマ「自然について」「生命の不思議について」
日 時：平成25年7月11日(木)(5時間目)
場 所：高槻市立榎田小学校 [大阪府高槻市]
講 師：長瀬健二郎(前天王寺動物園園長)
参加者：小学3、4年生18名

テーマ「昆虫の暮らし」
日 時：平成25年7月12日(金)(4時間目)
場 所：守口市立八雲小学校 [大阪府守口市]
講 師：谷 幸三(晴れの国野生生物研究会会長)
参加者：小学3年生59名

テーマ「昆虫の暮らし」
日 時：平成25年7月17日(水)(3時間目)
場 所：大阪市立姫里小学校 [大阪市西淀川区]
講 師：谷 幸三(晴れの国野生生物研究会会長)
参加者：小学3年生71名

テーマ「昆虫の暮らし」
日 時：平成25年9月26日(木)(5時間目)
場 所：堺市立市小学校 [大阪府堺市]
講 師：谷 幸三(晴れの国野生生物研究会会長)
参加者：小学3年生66名

テーマ「生命」「自然」「命」など
日 時：平成25年11月22日(金)(5時間目)
場 所：守口市立藤田小学校 [大阪府守口市]
講 師：佐藤洋一郎(京都産業大学教授)
参加者：小学3年生66名



普及啓発・
国際交流事業

小学校講師派遣

テーマ「自然・昆虫」
日 時：平成25年11月27日(水) (4時間目)
場 所：大阪市立難波元町小学校〔大阪市浪速区〕
講 師：谷 幸三(晴れの国野生生物研究会会長)
参加者：小学3年生20名

テーマ「昆虫の暮らし」
日 時：平成26年1月28日(火) (3時間目)
場 所：大阪市立櫻本小学校〔大阪市鶴見区〕
講 師：谷 幸三(晴れの国野生生物研究会会長)
参加者：小学3年生143名

テーマ「昆虫の暮らし」
日 時：平成26年1月28日(火) (4時間目)
場 所：大阪市立櫻本小学校〔大阪市鶴見区〕
講 師：谷 幸三(晴れの国野生生物研究会会長)
参加者：小学4年生127名

テーマ「自然と人とのかわり」
日 時：平成26年2月4日(火) (5時間目)
場 所：大阪市林寺小学校〔大阪市生野区〕
講 師：長瀬健二郎(前天王寺動物園園長)
参加者：小学5、6年生30名



生態園づくり

次世代育成とマス・コミとの連携強化のため、毎日新聞大阪本社との共催による小・中学校生態園づくりを実施しました。

場 所：大阪市立東桃谷小学校(大阪府大阪市)
内 容：バタフライガーデンをつくろう

場 所：堺市立原山台小学校(大阪府堺市)
内 容：淀川と子どもをつなぐ「緑の小道」

場 所：大阪市立新庄小学校(大阪府大阪市)
内 容：新庄のオアシス“都会の中の自然”

場 所：尼崎市立武庫庄小学校(兵庫県尼崎市)
内 容：いのちのタイムカプセル

場 所：大阪市立古市小学校(大阪府大阪市)
内 容：みんなでつくる原山池



花育推進事業

花と緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参加し、関係団体とともに、講習会やセミナー等の実施などの事業を行いました。

生き物共生まちづくり普及啓発事業

生き物と共生するまちづくりのあり方や個人の生活と生物多様性の関係性を解説した小冊子を作成、配付しました。



都市緑化推進運動

春の都市緑化推進運動期間(4~6月)及び都市緑化月間(10月)における「みどりの愛護のつどい」や都市緑化キャンペーン活動等の事業を支援するため、都市緑化推進運動協力会に協力等を行いました。

花の万博開催の地元における普及啓発事業(府市理念継承事業)

花の万博開催の地元において理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と共同して実施しました。

大阪都市緑化フェア2013

花と緑あふれる豊かな街づくりを進め、都市緑化に関する府民の意識の高揚や知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画し、支援を行いました。また、会場内の出展ブースにおいて協会の事業紹介パネルの展示を行いました。
開催日:平成25年10月12日(土)・13日(日)
場所:大阪城公園西の丸庭園[大阪市中央区]
来場者:23,000人
内容:花苗・球根の配布、植木市、緑化相談、園芸講習会など
主催:当協会、大阪府



はならんまん2013 (大阪都市緑化フェアと共同開催)

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すことを目的とした本事業を支援しました。
主催:大阪府、大阪市



第3回みどりのまちづくり賞

緑のまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした本賞に参画し、会長賞を授与しました。

公園利用促進 広報事業

花と緑の拠点である大阪府営公園(18ヶ所)での過ごし方、利用活用並びに協会の紹介を盛り込んだ情報誌(オアフ)35,000部を産経新聞社と作成、配布しました。



「みどり」の ネットワーク構築 検討プロジェクト

「みどりの風の道効果測定調査研究事業」として道路の中央分離帯の整備効果についての調査を支援しました。

飛鳥地方の歴史的風土向上プロジェクト

飛鳥地方の歴史的風土に調和した景観づくりのための植栽を行う(公財)古都飛鳥保存財団を支援しました。

2013年度事業実績

普及啓発・国際交流事業

その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のため、各種団体等が実施する行催事等を協賛、後援等を行いました。

後援等一覧	●催事名(開催時期)	●開催場所	●主催	●名義等
	第15回「国際バラとガーデニングショウ」 (H25.5.11～5.16)	西武ドーム (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニング ショウ組織委員会	後援
	第10回2013周防町通り「はなまつり」 (H25.5.11～5.19)	周防町通り(堺筋～御堂筋) と大阪市立南小学校(大阪市中央区)	ヨーロッパ村周防町通り 商店会	後援
	大阪はら祭2013 (H25.5.17～5.19)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館 (大阪市鶴見区)	(一財)大阪スポーツ みどり財団	後援 会長賞
	平成25年度「都市緑化月間」 (H25.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、 市町村	協賛
	はならんまん2013 (H25.10.12～10.13)	大阪城公園西の丸庭園 (大阪市中央区)	大阪市	協賛 会長賞
	第68回日本おもと名品展 (H25.12.14～12.15)	山形テルサイイベントホール (山形市)	(公社)日本おもと協会	後援 会長賞
	平成25年度大阪府立花の文化園幼児・小中 学生花の絵画展(H26.1.5～2.2)	大阪府立花の文化園(フルルガーデン) イベントホール(河内長野市)	(一社)大阪府みどり公社	後援 会長賞
	「淡路夢舞台ラン展2014」 (H26.1.25～3.9)	兵庫県立淡路夢舞台 (兵庫県淡路市)	淡路夢舞台ミュージアム パーク協働事業体 阪神園芸(株)大阪支店	後援
	第22回春雅展 (H26.3.21～3.23)	花博記念公園鶴見緑地 ハナミズキホール(大阪市鶴見区)	(公社)全日本小品盆栽協会	後援 会長賞

ホームページ等の運営・管理 公益法人移行に伴い、定款等を掲載したほか、各事業の情報を適宜更新しました。また、ソーシャルネットワークサービスのfacebookに協会ページを作成し、情報発信に努めました。



コスモス国際賞の広報 最新受賞者情報を掲載したパンフレットを作成し授賞式等で配付しました。
また、2013年(第21回)受賞者の業績、コスモス国際賞の趣意、構成、授賞式及び記念講演等を取りまとめた報告書(変形A4判72頁)を作成(1,400部)し、国内外の関係者に配付しました。



情報等の提供 各種イベント等の主催者に対し、花の万博のノウハウ、情報、写真等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体	4件
企業及び個人	8件

2013年度事業実績

その他広報

各事業の周知等のため、印刷物を作成し配布等しました。



国際交流事業

海外における都市緑化の先駆的モデルであるシンガポールの実態を理解し、わが国の緑の創造に寄与することを目的に、国立公園庁副長官レオン・チャー・チュウ博士を招き、第2回みどりの風フォーラムを開催しました。

日 時：平成26年3月3日(月)午後2時15分～5時30分
場 所：大阪産業創造館(大阪市中央区)
参加者：170名
共 催：毎日新聞大阪本社



調査研究・資料収集事業

生物多様性関連施策の実態と効果等に関する調査

国や地方自治体が調じた施策や事業の実態を把握し、生物多様性の保全が地域、国土づくりに果たす役割や課題を調査・検討しました。

里山における共生に関する調査

生物多様性の宝庫と言われる里山や、そこにつながる都市近郊の緑の再生や整備などの活動等について調査・資料収集を行いました。また、岩手県気仙地方を対象に、大学や活動団体と連携し、里山文化に関する調査を行い、復興まちづくりにも役立つ内容として冊子にとりまとめました。



組織運営

理事会 平成25年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第77回理事会 (決議の省略)	平成25年 4月15日(月)	—	コスモス国際賞委員会委員長並びに委員の選任の件
第78回理事会	平成25年 6月5日(水)	日本工業倶楽部会館 (東京都千代田区)	平成24年度事業報告並びに収支決算の件 定時評議員会の招集の件 基本財産の件 特定資産の件 役員報酬の件 経理規程の改正の件 顧問・参与の委嘱の件
第79回理事会 (決議の省略)	平成25年 6月11日(火)	—	評議員会の招集に係る決議の目的の追加等の件
第80回理事会	平成25年 7月30日(火)	日本工業倶楽部会館 (東京都千代田区)	2013年(第21回)コスモス国際賞の受賞者決定の件
第81回理事会	平成26年 3月25日(火)	東京商工会議所 (東京都千代田区)	基本財産及び特定資産(増額)の件 寄附金等取扱規程の制定の件 特定資産(寄附)の件 平成25年度収支予算の補正の件 平成26年度資産運用方針書の件 平成26年度事業計画及び収支予算の件 平成26年度助成団体の決定の件 役員報酬の件 諸規程の改正の件 参与の選任の件 助成事業審査委員会委員の選任の件

評議員会 平成25年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第42回評議員会	平成25年 6月28日(金)	関西文化サロン (大阪市北区)	評議員会の運営規則の件 平成24年度事業報告及び収支決算書類の承認の件 評議員の選任の件

平成25年度決算

貸借対照表 平成26年3月31日現在

単位:円

科 目	当年度	科 目	当年度
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	167,388,710	未払金	41,492,028
未収収益	114,566,182	預り金	716,682
前払金	72,000	賞与引当金	3,213,651
流動資産合計	282,026,892	流動負債合計	45,422,361
2. 固定資産		2. 固定負債	
(1) 基本財産		退職給付引当金	46,838,100
基本財産定期預金	358,344,700	固定負債合計	46,838,100
基本財産投資有価証券	509,655,300	負債合計	92,260,461
基本財産合計	868,000,000		
(2) 特定資産		III 正味財産の部	
記念基金	9,170,944,100	1. 指定正味財産	
退職給付引当資産	46,838,100	寄付金	10,010,000,000
東北復興支援事業資産	10,000,000	基本財産運用益	68,000,000
特定資産合計	9,227,782,200	特定資産運用益	552,008,000
(3) その他固定資産		特定資産評価差額金	△581,063,900
投資有価証券	20,508,358	指定正味財産合計	10,048,944,100
什器備品	8	(うち基本財産への充当額)	(868,000,000)
その他固定資産合計	20,508,366	(うち特定資産への充当額)	(9,180,944,100)
固定資産合計	10,116,290,566	2. 一般正味財産	257,112,897
資産合計	10,398,317,458	正味財産合計	10,306,056,997
		(うち基本財産への充当額)	(0)
		(うち特定資産への充当額)	(0)
		負債及び正味財産合計	10,398,317,458

(注)貸借対照表においては、「公益法人会計基準」

(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)の採用初年度であり、前年度の数値を記載していない。

正味財産増減計算書 平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

単位:円

科目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1 経常増減の部	
①経常収益	
基本財産運用益	324,035
基本財産受取利息	324,035
特定資産運用益	341,710,447
特定資産受取利息	10,658
記念基金受取利息	245,579,789
記念基金売却益	96,120,000
有価証券償還益	5,286,000
有価証券償還益	5,286,000
雑収益	1,261,331
受取利息	761,031
雑収益	500,300
経常収益計	348,581,813
②経常費用	
事業費	240,430,425
役員報酬	8,337,000
給与手当	41,794,238
法定福利費	6,735,924
退職給付費用	2,143,349
賃金	1,255,699
職員厚生費	672,983
会議費	1,450,272
旅費交通費	7,823,752
通信運搬費	2,347,236
広告費	771,750
減価償却費	5,144
消耗什器備品費	86,108
消耗品費	2,986,281
印刷製本費	2,947,510
光熱水料費	3,377,663
役員費	490
委託費	45,836,641
賃借料	5,336,677
使用料	2,870,716
諸謝金	5,155,759
租税公課	111,573
支払負担金・会費	48,022,101
支払助成金	9,363,000
支払手数料	845,971
顕彰賞金	40,000,000
雑費	152,588
管理費	86,550,513
役員報酬	3,573,000
給与手当	37,277,219
法定福利費	6,770,732
退職給付費用	1,945,451
賃金	538,157
職員厚生費	610,845
会議費	621,546
旅費交通費	3,353,037
通信運搬費	1,005,959
広告費	330,750
減価償却費	2,205

科目	当年度
消耗什器備品費	36,904
消耗品費	1,279,837
印刷製本費	1,263,219
光熱水料費	1,447,570
役員費	210
委託費	19,644,275
賃借料	2,287,147
使用料	1,230,309
保険料	246,460
諸謝金	2,209,611
租税公課	47,817
支払負担金・会費	400,300
支払手数料	362,559
雑費	65,394
経常費用計	326,980,938
当期経常増減額	21,600,875
2 経常外増減の部	
①経常外収益	
経常外収益計	0
②経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	21,600,875
一般正味財産期首残高	235,512,022
一般正味財産期末残高	257,112,897
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	10,000,000
受取寄付金	10,000,000
基本財産運用益	38,324,035
基本財産受取利息	38,324,035
特定資産運用益	531,699,789
記念基金受取利息	435,579,789
記念基金投資有価証券売却益	96,120,000
特定資産評価益	665,305,600
記念基金投資有価証券評価益	665,305,600
一般正味財産への振替	△342,023,824
一般正味財産への振替	△342,023,824
当期指定正味財産増減額	903,305,600
指定正味財産期首残高	9,145,638,500
指定正味財産期末残高	10,048,944,100
III 正味財産期末残高	10,306,056,997

(注)正味財産増減計算書においては、「公益法人会計基準」
(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正
内閣府公益認定等委員会)の採用初年度であり、前年度の数値を記載していない。

財団の概要(平成25年1月4日現在)

名称	公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
公益法人移行日	2013年(平成25年)4月1日
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

評議員 平成26年4月1日現在(50名満)

評議員	青木保之 (学)東洋女子学園理事
評議員	小河保之 大阪府副知事
評議員	金田章裕 京都大学名誉教授
評議員	坂本忠宣 日本放送協会大阪放送局長
評議員	佐藤茂雄 大阪商工会議所会頭
評議員	佐藤友美子 追手門学院大学地域文化創造機構特別教授
評議員	田中清剛 大阪市副市長
評議員	土井元章 京都大学大学院農学研究科教授
評議員	羽田光一 (公社)日本家庭園芸普及協会会長
評議員	畑中孝晴 (一財)日本花普及センター評議員
評議員	正木啓子 大阪ガス(株)近畿園部顧問
評議員	増田昇 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授
評議員	松下正幸 (公財)松下幸之助記念財団理事長

役員 平成26年4月1日現在(50名満)

会長	今井敬 (一社)日本経済団体連合会名誉会長
理事長	角和夫 阪急阪神ホールディングス(株)代表取締役社長
専務理事	宮前保子 常勤
理事	今西英雄 大阪府立大学名誉教授
理事	輿水肇 明治大学農学部教授
理事	本間和枝 (公財)宇治市公園公社顧問
理事	森本幸裕 京都学芸大学バイオ環境学部教授
理事	和田新也 国際園芸家協会(AIPH)日本代表
監事	北山諒一 公認会計士
監事	堀井良殷 (公財)関西-大阪21世紀協会理事長

顧問 平成26年4月1日現在(50名満)

顧問	中川和雄 大阪日韓親善協会会長
顧問	牧野徹 (公財)日本住宅総合センター理事長

参与 平成26年4月1日現在(50名満)

参与	泉眞也 環境プロデューサー
参与	岩槻邦男 東京大学名誉教授
参与	小林庄一郎 関西電力(株)顧問
参与	佐々木正峰 (独)国立科学博物館顧問
参与	中村桂子 JT生命誌研究館館長
参与	長倉三郎 前日本学士院長
参与	波多野敬雄 (学)学習院院長
参与	松本洋 (一財)日本国際協力システム顧問
参与	ルイ・サトウ 在仏建築家

協会事務局 (TEL:06-6915-4500、FAX:06-6915-4524)

〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL:06-6915-4500)
〈管理運営、事業総合調整、評議員会・理事会関係、予算・決算、広報、基金運用等〉
- ◆企画事業部 (TEL:06-6915-4516、4513)
〈顕彰事業、助成事業、普及啓発、国際交流、フォーラム、セミナー、調査研究・資料収集等〉

顕彰事業**1. 2014年(第22回)「コスモス国際賞」**

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という)の理念である「自然と人間との共生」に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2014年(第22回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

平成26年度は、2014年の受賞選考、決定及び2015年(第23回)の選考準備を行います。2014年の受賞者は7月下旬を目途に決定し、10月30日に授賞式を開催します。また、「コスモス国際賞」授賞式に関連して、受賞者の記念講演会等を開催します。

開催時期:平成26年10月下旬

開催場所:東京と大阪の2箇所

2. BIEコスモス賞

国際博覧会のテーマに沿った先駆的市民活動に対する顕彰事業として設けたBIEコスモス賞について、2015年に授賞が予定されているミラノ万博での実施をBIEと調整します。

3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に「花と緑の国づくり及びまちづくり」を目的として実施されている花のまちづくりコンクール推進協議会に参画します。

助成・協働事業**1. 調査研究、行催事等助成事業**

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究開発」並びに「活動・行催事」を支援するため、全国公募による助成事業を行います。

2. 花とみどりの復興活動支援助成事業

東日本大震災の復旧・復興を花とみどりで支援するため、「花とみどりの復興支援ネットワーク」に参加し、復興活動に対する支援金の提供を行います。

3. 地域協働事業

平成26年度は、過年度に地方公共団体・企業・ボランティア・住民等と協働し実施した緑化や花飾り等の事業のうち、特に協会の理念継承に資する事業や効果の高かった事業について、対象を全国に拡げて実施します。

また、東日本大震災の被害が大きかった岩手・宮城・福島県の3県を中心に、地元自治体やNPOなどと協働し、緑化を中心とした「東北復興支援事業」を実施します。

普及啓発・国際交流事業**1. 次世代育成事業**

花の万博の理念の継承と啓発を目的として、協会事業に関係する学者、知識人等を講師に招き、セミナー(自然観察教室、小学校への講師派遣)を実施します。

また、毎日新聞大阪本社との共催による学校ビオトープ事業「小・中学校における生態園づくり」も実施します。

2. 花育推進事業

花や緑を児童教育等の中に取り入れることを目的とした「花育活動」の推進のため、花育推進セミナー・交流会、花育ワークショップ等の開催等を支援します。

3. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」及び住民参画のまちづくりを推進する「まちづくり月間」に対し、協力します。

4. 普及啓発事業

花の万博開催地の大阪で開催される「大阪府都市緑化フェア」、「はならんまん」などの普及啓発イベントに協力するとともに、みどりのまちづくりに貢献する建物や緑化活動を表彰する「みどりのまちづくり賞」に、主催者の一員として参画し、実施します。

また、「コスモス国際賞受賞記念講演会」を、高校生や一般を対象に実施するほか、各種フォーラムを開催します。

5. 国際交流事業

開催が予定されている海外の園芸博覧会等の情報を収集し、当協会の関わり方を調査・検討するほか、コスモス国際賞の受賞者・海外の研究機関等を活用した研修事業等の検討を行います。

調査研究・資料収集事業**1. 生物多様性等に関する調査**

過去の調査結果等を踏まえながら、新たな生物多様性等の事業展開を検討するため、情報収集や資料収集等を行います。

2. 里山等における共生に関する調査

東北や近畿の地域特有の里山文化(共生)に関する各種調査を行うとともに、被災地やまちづくりにも役立つ調査・資料収集を行います。

また、その結果を取りまとめ発信していく他、協会事業の企画立案の基礎とします。



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会
〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号
TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524
<http://www.expo-cosmos.or.jp/>

表紙の写真：「シンビジウム」

2013年(第21回)コスモス国際賞授賞式に用いたコサージ・フートニアです。
蘭の愛好家であるペイン博士が、ご自宅で栽培されているシンビジウムをモチーフにしました。

